

経済統計：前期第 1 回中間試験

村澤 康友

2009 年 5 月 13 日

注意：3 問とも解答すること。

1. (20 点) 以下の用語の定義を式または言葉で書きなさい (各 20 字程度)。

- (a) (事象の) 独立性
- (b) 確率変数
- (c) (連続分布の) 密度関数
- (d) (確率変数の) 分散

2. (30 点) 「交通安全白書 (平成 20 年)」によると，平成 19 年の日本の自動車乗車中の交通事故死者数は 2,013 人，同負傷者数は 641,907 人であった．また死傷者 (死者または負傷者) 中のシートベルト着用率は 89.1 %，死者中のシートベルト着用率は 46.6 %であった．すなわち交通事故におけるシートベルト着用の事象を A ，交通事故死の事象を B とすると，

$$\begin{aligned}P(A) &= .891, \\P(B) &= \frac{2013}{2013 + 641907} \approx .00313, \\P(A|B) &= .466.\end{aligned}$$

以下の確率を求めなさい。

- (a) $P(A \cap B)$
 - (b) $P(B|A)$ (シートベルト着用者の致死率)
 - (c) $P(B|A^c)$ (シートベルト非着用者の致死率)
3. (50 点) 2 つのサイコロの目の差の絶対値を X とする。
- (a) X の確率関数を式とグラフで書きなさい。
 - (b) X の累積分布関数を式とグラフで書きなさい。
 - (c) $E(X)$ を求めなさい。
 - (d) $E(X^2)$ を求めなさい。
 - (e) $\text{var}(X)$ を求めなさい。

解答例

1. 確率の基本用語

(a) $P(A|B) = P(A)$ なら A と B は独立 .

- $P(A \cap B) = P(A)P(B)$ でも OK .
- 「 A が起こる確率が B に無関係」は OK.
- 「 A と B が無関係に起こる」は 0 点 .

例 : 白と黒のサイコロを投げる . A は「白が奇数」, B は「白と黒の合計が奇数」とする . B が起こる状況 (黒が奇数が偶数か) は A の結果に依存しており , 無関係に起こるわけではない .

(b) 試行の結果によって値が決まる変数 .

- 「確率的に値が決まる変数」でも OK.

(c) 任意の x について $\Pr[X \leq x] = \int_{-\infty}^x f_X(t) dt$ となる $f_X(\cdot)$.

- 任意の a, b について $\Pr[a < X \leq b] = \int_a^b f_X(t) dt$ でも OK .
- $f_X(\cdot) := F'_X(\cdot)$ でも OK .
- 「 $\int_{-\infty}^{\infty} f_X(t) dt = 1$ を満たす非負の $f_X(\cdot)$ 」でも OK .

(d) 2 次の中心積率 .

- 式で表すなら $\text{var}(X) := E((X - E(X))^2)$.
- $\text{var}(X) = E(X^2) - E(X)^2$ は定義でないので 0 点 .
- データの分散は 0 点 .

2. ベイズの定理

(a)

$$\begin{aligned} P(A \cap B) &= P(A|B)P(B) \\ &\approx .466 \cdot .00313 \\ &\approx .00146. \end{aligned}$$

(b)

$$\begin{aligned} P(B|A) &= \frac{P(A \cap B)}{P(A)} \\ &\approx \frac{.00146}{.891} \\ &\approx .00164. \end{aligned}$$

(c)

$$\begin{aligned} P(B|A^c) &= \frac{P(A^c \cap B)}{P(A^c)} \\ &= \frac{P(A^c|B)P(B)}{P(A^c)} \\ &= \frac{(1 - P(A|B))P(B)}{1 - P(A)} \\ &\approx \frac{.534 \cdot .00313}{.109} \\ &\approx .0153. \end{aligned}$$

3. 離散分布の例

(a)

$$X = \begin{cases} 0 & \text{with pr. } 6/36 \\ 1 & \text{with pr. } 10/36 \\ 2 & \text{with pr. } 8/36 \\ 3 & \text{with pr. } 6/36 \\ 4 & \text{with pr. } 4/36 \\ 5 & \text{with pr. } 2/36 \end{cases}.$$

したがって

$$p_X(x) = \begin{cases} 5/18 & \text{for } x = 1 \\ 4/18 & \text{for } x = 2 \\ 3/18 & \text{for } x = 0, 3 \\ 2/18 & \text{for } x = 4 \\ 1/18 & \text{for } x = 5 \\ 0 & \text{elsewhere} \end{cases}.$$

グラフは省略 .

- 式で 5 点 , グラフで 5 点 .
- 今回は確率 0 の範囲を無視しても可とする .

(b)

$$F_X(x) = \begin{cases} 0 & \text{for } x < 0 \\ 3/18 & \text{for } x \in [0, 1) \\ 8/18 & \text{for } x \in [1, 2) \\ 12/18 & \text{for } x \in [2, 3) \\ 15/18 & \text{for } x \in [3, 4) \\ 17/18 & \text{for } x \in [4, 5) \\ 1 & \text{for } x \geq 5 \end{cases}.$$

グラフは省略 .

- 式で 5 点 , グラフで 5 点 .
- 前問の pdf と整合的な cdf なら可とする .

(c)

$$\begin{aligned} E(X) &= 0 \cdot \frac{3}{18} + 1 \cdot \frac{5}{18} + 2 \cdot \frac{4}{18} + 3 \cdot \frac{3}{18} + 4 \cdot \frac{2}{18} + 5 \cdot \frac{1}{18} \\ &= \frac{5 + 8 + 9 + 8 + 5}{18} \\ &= \frac{35}{18}. \end{aligned}$$

(d)

$$\begin{aligned} E(X^2) &= 0^2 \cdot \frac{3}{18} + 1^2 \cdot \frac{5}{18} + 2^2 \cdot \frac{4}{18} + 3^2 \cdot \frac{3}{18} + 4^2 \cdot \frac{2}{18} + 5^2 \cdot \frac{1}{18} \\ &= \frac{5 + 16 + 27 + 32 + 25}{18} \\ &= \frac{105}{18} \\ &= \frac{35}{6}. \end{aligned}$$

(e)

$$\begin{aligned} \text{var}(X) &= E(X^2) - E(X)^2 \\ &= \frac{35}{6} - \left(\frac{35}{18}\right)^2 \\ &= \frac{35 \cdot 54 - 35^2}{324} \\ &= \frac{35 \cdot 19}{324} \\ &\approx 2.05. \end{aligned}$$

計算ミスは1点減とし、その後は整合性が保たれていれば減点しない。ただし有り得ない数値の解答は0点とする（ $[0, 1]$ を超える確率、負の分散など）。

答案は返却します。採点や成績に関する質問にも応じます。オフィスアワーの時間（月水木金の昼休み）に研究室まで来てください。